The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	順接条件節「なら」の接続形態
Author(s)	前田, 直子
Citation	現代日本語研究. 2017, 9, p. 23-39
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/61382
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

順接条件節「なら」の接続形態

Conditional *Nara* and its Co-occuring Forms

前田 直子
MAEDA Naoko

キーワード：『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊：分析』、条件節、なら、ならば、したなら、

要　旨

本稿は、『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊：分析』(1964)における「なら」の記述・分析の妥当性を、現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）をデータとして調査し、「なら」の接続の多様性について考察した。まず「なら(ば)」の前接語については、名詞類に接続するほうが活用語類に接続するより多かった。また同書に指摘のないイ形容詞、および「なら」の前に助詞が現れる場合について分析した。さらに「なら」と「ならば」の違い、そして「なら（ば)」に前接する活用語のテンス形式について分析した。「ならば」は、書籍・新聞・ブログにおいて出現しやすいこと、「た＋なら」が反事実的な条件文に偏ること、過去形は「なら」より「なら＋ば」に接続しやすいことを確認し、このことから「た＋なら＋ば」の場合に、反事実的な条件文に偏る傾向がより強くなることが分かった。また、新たに「たならば」が否定形に接続する傾向が高いことが示された。

1. はじめに

『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊：分析』は、 国立国語研究所による「国立国語研究所報告」の一つとして、1964 年に刊行された。その執筆者は見坊豪紀・水谷静夫・石綿敏雄・宮島達夫の４氏であり、それぞれの分担は「まえがき」および「目次」に記されている。現代ほどコンピューターが一般化しておらず、「コーパス」という言葉もなかったこの時代に、現代のコーパス言語

学の先駆けとなるような多くの研究が国立国語研究所で行われていたが、この研究はそれら優れた成果の一つである。

本稿は、この本の中で取り上げられた文法項目のうち、「なら」に関する記述について分析・考察する。

2.『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊：分析』における「なら」の記述

『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊：分析』（以下『現代雑誌 90 種』）では、147 ページから「(15) 条件の表現〔一〕……「と」「ば」「たら」「なら」」というタイトルの記述が始まり、まず「と」「ば」「たら」の３つの分析が 11 ページにわたって続く。この分析は、宮島（1964）にもまとめられており、特に後者はその後のこの分野における必読文献となった。

一方、これらの研究から注目されるのは、「なら」を他の３つの条件接続辞と分けて記述しているという点である。まず「(15) 条件の表現〔一〕……「と」「ば」「たら」「なら」」において、「と」「ば」「たら」の記述の後に、以下のような特徴の指摘がある（cf. pp. 158-159）。

①「なら（ば）」が活用語について仮定条件を表す際に、現在形につく場合（27 例）と過去形につく場合（10 例）があること。

②「～るなら」と「～たなら」は、置き換えられる場合も少なくないが、「～たなら」が前件の完了を条件とし、後件は前件よりも時間的に後の場合に用いられるのに対して、「～るなら」は必ずしもそうではなく、前件が後件よりも後に起こる場合もあること。

③「～るなら」と「～たなら」は、前者が予定ないし意志を前提とし、後者は完了を前提にするという対立があること。

④これらは「～る」と「～た」のアスペクト的、ないしはムード的な違いによること。

⑤「～たなら」は、「～ば」「～たら」「～るなら」などよりも、仮定的なニュアンス、現実の事態に反する、というニュアンスが強いこと。

さらに続く「(16) 条件の表現〔二〕……「なら」「ならば」」において、「なら」と「ならば」の相違点が次のように指摘されている（cf. pp. 159-160）。

⑥「なら」と「ならば」については、全体としては「なら」が多いこと、か

たい文章では「ならば」が出やすいこと。

⑦地の文と会話文とにわけると「ならば」は地の文に多いようであるが、統計的に有意差はないこと。

⑧「ならば」は「た」に続く場合に、他の場合よりも出る率が高いこと。これは「なら」がより提題的であるのに対して「ならば」の方がより仮定的であることを示すためであると考えられること。

この中には、現在では常識となっているようなこともあれば、そうでないものもあるが、これらを明らかにしたのがこの研究であったということが改めて確認できる。本稿は、これらの指摘の妥当性を、改めて検証する。具体的には、(1)「なら（ば)」の前接語の品詞、(2)「なら（ば)」に前接する活用語のテンス（「するなら」と「したなら」)、(3)「なら」と「ならば」の違い、この３項目を取り上げて、現代日本語における「なら」の接続形態の全体像を捉えたい。

３．「なら」の前接語の分布

３．１．『現代雑誌 90 種』の調査結果

「なら」は条件表現を表す接続辞であるが、述語に接続するだけでなく、名詞に直接接続することができる。名詞に接続する「なら」は、判定詞の「ば」形という考えも可能であるが、『現代雑誌 90 種』では、そのようには扱わず、「なら」の位置づけについて、（１）ではなく（２）であるとし、それについて（３）のように述べている(cf. p. 149)。

（１）みたら　　山だったら
　　みると　　山だと
　　みれば　　山ならば

（２）みたら　　山だったら
　　みると　　山だと
　　みれば　　ー
　　みるなら（ば）　　山なら（ば）
　　みたなら（ば）　　山だったなら（ば）

（３）「～ならば」は「～なら」とほとんど完全におきかえることができ、両者のあいだにはニュアンスの差があるにすぎない。「みたら」「みると」

「みれば」がそれぞれ独立の、別々の文法形式であるのに対して、「山なら」と「山ならば」とは同一の文法形式の変種である。「みれば」に対して「みりゃあ」が文体論的な変種であるのと近い。そして、一方、「なら」は用言にもつづくのだから、「山なら（ば)」は「みれば」よりも、「みるなら」の方に対応する。

さて、まず最初に検討したいのは、「なら」は、名詞に付く場合と用言に付く場合とでは、どちらが多いか、という問題である。『現代雑誌 90 種』では次のような表が示されているので、そこにパーセンテージを入れると、次のようになる（cf.『現代雑誌 90 種』p. 160)。

表 1 :『現代雑誌 90 種』における「なら」の前接語

〔16. 4〕	なら	ならば	計		
名詞	48	10	58	42%	
形容動詞語幹	6	−	6	4%	
代名詞	11	1	12	9%	
副詞	10	3	13	9%	
活用語＋の	5	−	5	4%	
名詞＋格助詞	6	1	7	5%	
動詞連体形	19	6	25	18%	27%
である	1	−	1	1%	
活用語＋た	3	7	10	7%	
活用語＋ない	1	−	1	1%	
動詞＋う[1)]	−	1	1	1%	
計	110	29	139		

「なら」の用例のうち、名詞および代名詞で半数（51%）を占め、活用語は形容動詞語幹を入れないと 27%、入れて 31%である。すなわち、「なら」の接続は、述語よりも名詞のほうが多く、「名詞＋なら」が最も基本的な接続であることがわかる。

３．２．『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）』の調査結果

同様の接続調査を、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）』(BCCWJ-NT)を使用して行った。「コアデータ」のみを検索対象とし、コーパス検索アプリケーション「中納言」により検索[2)]したところ、587 例を得た。それらに見られた前接語の分布を示すと、表２のようになる。

表２：『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）』における「なら」の前接語

	雑誌		書籍		新聞		白書		知恵袋		ブログ		計	『現代雑誌90種』
	なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば		
名詞	67	4	25	6	29	1			61	3	11	3	210	241
形式名詞　こと	3		6						5				14	
ため			1						1				2	
ところ			1										1	
まま					1								1	
もの	3		1						1		1		6	
よう			1						2		2		5	
前									1				1	
しようものなら			1										1	
準体助詞　の	6	1	8		1	1			22	1	5		45	45
代名詞	13		8	4	4				1	1	3		34	34
ナ形容詞語幹	1		4		2	1			5		1		14	14
動詞　非過去	41	1	27		11	2	2		24	4	9	2	123	135
テイル動詞	2		3						5		1	1	12	
である				1		2							3	3
だった	1												1	15
動詞　過去形	2		0	1					1		1	1	6	
動詞　過去　否定[3)]			1	6									7	

イ形容詞 過去 否定			1										1	
動詞 非過去 否定	2				1	2			5				10	11
イ形容詞 否定									1				1	
イ形容詞	1			1					3		1		6	
そう									2				2	
たい	2		1						4	1	1		9	
いくら	1												1	33
なぜ	4		5			2							11	
何			1										1	
どうせ	1										2		3	
副詞			6		5		1		4		1		17	
引用句					1							1	2	
副助詞	5		4	1	1				7		3		21	
格助詞	3		1										4	4
接続詞 であるなら											1		1	
接続詞 ならば	1	2	1	3					1		1	2	11	
	159	8	107	23	56	11	3	0	156	10	44	10	587	
	167		130		67		3		166		54			

表 1 に示した『現代雑誌 90 種』の分類項目と考えられる数値を右端の欄に記した。この欄が空欄である部分が、『現代雑誌 90 種』には（明確には）なかった分類項目となる（例えば「イ形容詞」など）。

本調査の結果、BCCWJ-NT においても、名詞類 241 件（41%）、代名詞 34 件（6%）、動詞類 160 件（27%）と、名詞のほうが多く、その割合も『現代雑誌 90 種』とほぼ同じであることが分かった。大まかに言えば、「なら」の接続は、名詞（形式名詞・代名詞・ナ形容詞語幹）に接続する場合が約 5 割、動詞・形容詞に接続する場合が約 3 割、残りの 2 割を助動詞・副詞・助詞が占めることになる。

３．３．「イ形容詞＋なら」をめぐって

両調査から分かることの一つは、イ形容詞の少なさである。『現代雑誌 90 種』にイ形容詞の項目がなかったのも、「イ形容詞＋なら」が稀であることを示すものであろう。

今回の調査で採集されたイ形容詞の例は以下の４例である。イ形容詞が少ない理由は明確ではないが、状態性述語であるイ形容詞では、「ば・たら」と「なら」との違いが明確でなくなるため[4)]、イ形容詞の場合は「なら」が使用される比率が下がる可能性があること、また４例中３例が「Yahoo!知恵袋　2005」の例であることを考えると口語的な表現と言えるのかもしれない。

(1)人は最終的なｈｏｍｅ（墓）にたどり着くまで、まるでステップを刻みながら（きっと十三段に違いない）斜面を登るように営々と自分の居場所を探しつづけるしかないのだ（たぶん十字架を背負って）。もて余された身の置場でよいならば、ことさらｈｏｕｓｅも段ボール・ホームなど要りはしない。一枚の座布団、一脚の椅子を暖めながら墓づくりの算段をしていればよい。　（縄文人『いえづくりをしながら考えたこと』2002）

(2)数ヶ月前にも傷害事件を起こしたが責任能力が無いため無罪になったって言ってた。この国はほんとに被害者よりも加害者の人権を優先するな～と思いました。責任を取らせて刑務所に入れるか、責任能力が無いなら治るまで病院へ入れてほしいものです。　（Yahoo!知恵袋　2005）

(3)その気がないのなら、ハッキリ断るのがいちばんですが、断り方が難しいなら、「実は自分の親戚はあなたの宗教とは対立している宗教なもんで、申し訳ない。今度からは宗教抜きの話で、お会いしましょう。」みたいな感じはどうでしょうか？　（Yahoo!知恵袋　2005）

(4)質問です。最近、中古台で花火 を買ったのですが、ＣＪエラーが出てしまいます。ネットで検索したところ、このエラーはセレクターが汚れているとなるとのことなんですが、どのあたりを掃除すればＣＪエラーが発生しなくなりますか？　お答えお願いします。／買ってまだ間もないなら、買ったお店に聞いてみたらどうですか？　（Yahoo!知恵袋　2005）

３．４．「助詞＋なら」をめぐって

『現代雑誌 90 種』では、「名詞＋格助詞」が 7 件（５％）出現したことが指摘されている（cf.表１）。「なら」が名詞や用言、あるいは副詞など、自立語に接続することは特段に指摘することではないが、助詞に接続することは、こうした数量的調査を行って改めて明らかになることであろう。

ここでは、『現代雑誌 90 種』が指摘した助詞以外に、どのような助詞がどの程度使われているのかを BCCWJ-NT のコアデータ、および、拡大調査として全データにより調査した。調査した助詞は、BCCWJ-NT(UniDic)の品詞小分類で指定されている格助詞、副助詞、係助詞、接続助詞、終助詞、準体助詞の６種であるが、このうち終助詞と準体助詞は、コアデータには出現せず、全データ検索にのみ出現した。出現形式は、準体助詞は「の」、また終助詞は１例[5]を除いて「の」であったが、この終助詞とされた「の」も準体助詞と考えられるので、この２つの助詞を除いたものについて述べる。

３．４．１．格助詞＋なら

『現代雑誌 90 種』の調査では、「名詞＋格助詞＋なら（ば）」と接続する形が 7 件あったことが示されているが、具体的にはどのような格助詞が出現したかは示されていない。BCCWJ-NT のコアデータ調査では、「名詞＋格助詞＋なら（ば）」の例が４件（「で」２件、「に」２件）出現した。

(5)食事の後片づけをしてくれとは、とんでもない。大学の食堂でならともかく、家ではそのようなことは絶対にしない。

（中野不二男『脳視ドクター・トムの挑戦』2005）

(6)「みんなは止めるべきだと言ってます。私が賛成するのはおかしいって。でも私は行かせてあげたい。その気持ちは、きっとあなたにならわかって貰えるような気がしたんです」　（唯川恵『青春と読書』2002 年 5 月号）

「で」「に」の他にどのような格助詞が可能なのかを確認するために、BCCWJ-NT の全データを対象に検索[6]したところ、形態素解析の誤りを除くと次のような結果になった。「で」「に」がやはり多いのだが、それに加えて「から」も多く出現し、さらに「と」「へ」の例が見られた。

表３：格助詞＋「なら」

で	に	から	と	へ	計
212	154	127	87	7	587
36.1%	26.2%	21.6%	14.8%	1.2%	

(7)山の斜面に立って拳下がりに撃とうとすれば、降り積った雪が邪魔になって目標がとらえにくい。だが木の上からなら、遮蔽物も少ないのでたっぷり狙えることだろう。

（安部龍太郎『小説すばる』2002 年 5 月号（第 16 巻第 5 号））

(8)トモエとなら正式に結婚してもよいと思った。

（田辺聖子『ブス愚痴録』1992）

(9)北海道から新潟へなら割とすぐ到着してしまいそうですよね…

（Yahoo!知恵袋　2005）

連用格助詞の中では、「が」「を」「より」が出現しなかった。なお「まで」は、BCCWJ-NT(UniDic)の品詞分類においては「副助詞」として扱われているため、その出現については次節で見る。

３．４．２．副助詞＋なら

『現代雑誌 90 種』では指摘がないが、副助詞[7]に接続した例が 20 件あった。出現した助詞は「くらい（ぐらい・ぐれえ・位・くらゐ)」と「だけ」の２形式である。

表４：副助詞＋「なら」（コアデータ）

	雑誌	書籍	新聞	白書	知恵袋	ブログ	小計	計
くらい	1	3	1	－	5	1	11	20
だけ	3	2	－	－	2	2	9	

BCCWJ-NT の全データを対象とすると、次表のように多様な副助詞が出現した。ただし、「くらい」「だけ」がほとんどを占めることに変わりはなく、さらに１

割ほど「まで」も出現した。

この「まで」については、全て時間・空間、あるいは数量的な段階の限界点を表すもの、すなわち現在では「格助詞」に分類されるタイプであった。この「まで」を格助詞と考えるとすると、前節の格助詞について言えば、「まで」が 241 件で、最も多く出現した格助詞であるということになる。

表５：副助詞＋「なら」（全データ）

くらい	だけ	まで	とか	など	ほど	ばかり	のみ	ずつ	か	って	きり	計
912	840	241	99	19	17	16	13	10	6	4	2	2179
41.9%	38.5%	11.1%	4.5%	0.9%	0.8%	0.7%	0.6%	0.5%	0.3%	0.2%	0.1%	

(10)十月くらいまでなら余裕で泳げますよ。天候にもよりますが。

（Yahoo!知恵袋 2005）

(11)東京までは、流石に無理だけど名古屋までなら行くって決心したのに一！　（Yahoo!ブログ　2008）

(12)塩分濃度が１％までならバクテリアも死なないみたいです。

（Yahoo!知恵袋　2005）

３．４．３．接続助詞＋なら

『現代雑誌 90 種』および BCCWJ-NT のコアデータ調査でも出現しなかったが、BCCWJ-NT の全調査では、ごくわずかながら、接続助詞に「なら」が後続する例が検索された。

表６：接続助詞＋「なら」

てから[8]	て[9]	ながら	から（原因・理由）	たり[10]	計
14	12	5	2	2	21

(13)軽く湯銭するか、蓋にゴムを巻いてからなら 簡単に開けられますよ。

（Yahoo!知恵袋　2005）

(14)正吉は、遠くないようにと願いながら距離を聞いた。車でなら三、四分、歩いてなら二十分ぐらいという。

（又吉栄喜「日本文学のエッジからの問い」2003）

(15)人を呼ぶ時、息を吸いながら呼べますか？　難しいですよね。息を吐きながらなら「おーい！」と呼ぶこともできますよね。（Yahoo!知恵袋　2005）

(16)嵐龍三郎先生がまんぼう塾をやめようかと思ってると聞いて、誠は田中先生が学校をやめるらしいと聞いたときの百倍もおどろいた。「な、なんでやめようなんて思うのかな。生徒が少ないからなら、それは宣伝しないからだよ。宣伝したら、生徒はいっぱいくるにきまってる。」

（齊藤洋『まんぼう塾物語』1993）

(17)チェックは、まずガソリン漏れ。キャブがオーバーフローしたり、タンクキャップから漏れたりなら、起こせば止まるけど、燃料ホースやコックなどのクラックだと漏れ続ける。

（石橋知也『ロードライダー』2005 年 6 月号）

「なら」の前には、条件を表す「ば・と・たら」「ても・とも」、逆接の「けれども・が・のに」、並列の「し」、原因・理由の「ので」などは出現しない。

4.「するなら」と「したなら」、「なら」と「ならば」

第２節でみたように、「なら」はテンスの分化を持つ順接条件形式であり、非過去形に接続する「するなら」と過去形に接続する「したなら」の両方の形態がある。また「なら」は「ならば」という形で使われることもある。『現代雑誌 90 種』では、これらの点について、次のように述べている。

（18）助動詞「た」につづくばあいは他のばあいにくらべて「ならば」の出る率がたかい。これは「なら」がより提題的であるのに対して、「ならば」の方がより仮定的であることを示すものと思われる。(p. 160)

（19）なお、「～たなら」は、「～ば」「～たら」「～るなら」などよりも、仮定的なニュアンス、現実の事態に反する、というニュアンスがつよい。(p. 159)

この２点について、BCCWJ-NT のコアデータ調査の結果を検討していく。「なら」・「ならば」、および非過去形・過去形の検索結果を整理すると、次表のよう

になる。

表 7 :「するなら」と「したなら」

		雑誌		書籍		新聞		白書		知恵袋		ブログ		小計		
		なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば	なら	ならば	
非過去	動詞	41	1	27		11	2	2		24	4	9	2	114	9	123
	テイル	2		3						5		1	1	11	1	12
	である				1		2							0	3	3
	動詞 否定	2				1	2			5				8	2	10
	イ形容詞	1			1					3		1		5	1	6
	イ形 否定									1				1	0	1
	小計	46	1	30	2	12	6	2		38	4	11	3	139	16	155
過去	動詞	2			1					1		1	1	4	2	1
	だった	1												1	0	6
	動詞 否定			1	6									1	6	7
	イ形 否定			1										1	0	1
	小計	3		2	7					1		1	1	7	8	15
	計	49	1	32	9	12	6	2		39	4	12	4	146	24	170

過去形に続く場合（8/15 件）のほうが、非過去形に続く場合（16/155 件）に比べて、「ば」が付く率が高いというのは、今回のデータでも確認できた。「なら」がより提題的であるかはまだ明らかではないが、「ならば」の方がより条件的であるということは、接続の観点からは言えるだろう。ただし、あくまでも「率」の相違であり、過去形に続く場合はかならず「ば」が付くわけではなく、その割合は 5 割強に過ぎない。むしろ表を見ると、非過去形で「ならば」の割合が高いのは「新聞」と「ブログ」、過去形では「書籍」と「ブログ」であり、書き手の主張を展開する文章において「ば」が付きやすい傾向がうかがえるのではないだろうか。

また、「たなら」が仮定的か反事実的であるかについて、コアデータの 15 件を検討した。その品詞・肯否・意味（レアリティ[11]）・「ば」が後接するか否かについてまとめると、次のようになる。

表８：「したなら（ば）」のレアリティ

<table>
<tr><td colspan="3"></td><td>レアリティ</td><td>なら</td><td>ならば</td><td colspan="2"></td><td>計</td></tr>
<tr><td rowspan="2">動詞</td><td>肯定</td><td>した</td><td rowspan="2">仮説</td><td>4</td><td>1</td><td>5</td><td rowspan="2">6</td><td rowspan="8">15</td></tr>
<tr><td>否定</td><td>しなかった</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td>動詞</td><td>肯定</td><td>した</td><td>事実・反事実</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td>動詞</td><td rowspan="2">肯定</td><td>した</td><td rowspan="4">反事実</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td rowspan="4">8</td></tr>
<tr><td>判定詞</td><td>だった</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr>
<tr><td>動詞</td><td rowspan="2">否定</td><td>しなかった</td><td></td><td>5</td><td>5</td></tr>
<tr><td>形容詞</td><td>なかった</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td>7</td><td>8</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

仮説とは次のように、未実現の事態について予測をする場合である。

(20)大学の新人歓迎コンパのごとく、時には急性アルコール中毒の犠牲者が救急車で運ばれていくことすらあって、外国人がこれを見たなら、いったい何をそこに感ずるであろう。　（長沢利明『江戸東京歳時記』2001）

また、事実・反事実とは、前件が事実であり後件が反事実の場合である。この組み合わせは「ば・たら・と」では表せず、「なら」のみの用法である。

(21)犯人の動機も『生活に疲れてやった。だれでもよかった』という許しがたいものですし…（生きるのが嫌になったなら、一人で勝手に死ねばいいのに…）　（Yahoo!ブログ　2008）

反事実の場合とは、次のように、前件・後件ともに反事実の場合である。

(22)康次の死から二年も経っていない時期である。もしも康次が生きていたならきっとこの結婚式に出ただろうと思い、迷いながらも旅行社に問い合わせると、一万円ほど余計に出せば、シカゴ経由でマサチューセッツに回れるということがわかった。　（紀和鏡『週刊朝日』2003 年夏季号）

『現代雑誌 90 種』が指摘したように、「たなら」は仮説（6 件）もあるが、それよりも反事実（8 件）を表す場合のほうが多いということは特筆に値するだろう。他の条件節（ば・たら・と）では明らかにそうはならないからである。

「たなら」において反事実のほうが多いのは、次のように考えられる。すなわち、過去の事態は既に真偽が定まっていて、話者がその真偽を認識済みであることが原則である。にもかかわらず、過去の事態を仮定する「たなら」を用いるということは、過去の未確認の事態を仮定する場合より（それも可能である）、過去に起こらなかった事態を起こったと仮定すること（あるいはその逆）のほうが自然だということであろう。

さらに「たならば」になると、仮説（2 件）より反事実（6 件）が一層増える傾向も、今回の調査で確認された。「ば」が表す仮定の意味が反事実の表現になじむということであろう。

これらに加えて、今回の調査では、「たならば」では、肯定（1 件）よりも否定（7 件）のほうが圧倒的に多いという結果になった。「～なかったならば」の形により、過去に起こってしまった事態に対して、それが生起しなかった場合を仮定するケースが多い、ということであろう。

以上をまとめると、次のようになる。すなわち「た＋なら＋ば」という形式が反事実に傾き、もっとも仮定的な事態を表現するということ、また否定に偏っていたことが示されている。

表９：「するなら」と「したなら」および「なら」と「ならば」

	なら	ならば	
非過去形（する）	◎	○	仮説
過去形（した）	○	◎・否定形	反事実
	仮説	反事実	

◎は同行（左右）の○より多く出現することを表す

5. おわりに

本稿は、『現代雑誌 90 種』の中に示されている「なら」の記述・分析につい

て、現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）をデータとして調査し、検証した。調査の具体的な項目は以下の３点であった。

(1)「なら（ば)」の前接語の品詞

(2)「なら」と「ならば」

(3)「なら（ば)」に前接する活用語のテンス（「するなら」と「したなら」）

(1)については、『現代雑誌 90 種』の調査結果と同じく、名詞類に接続する場合のほうが活用語類に接続する場合よりも多かった。一方、『現代雑誌 90 種』には出現しなかったイ形容詞の出現について考察し、また「なら」の前に助詞が現れる場合について、格助詞・副助詞・接続助詞を対象に拡大調査（全データ調査）を行い、どのような助詞が現れ得るかを調べた。この結果は、「名詞＋なら」に偏っている現行の日本語教育における「なら」の指導を検討するための基礎的な調査結果となることが期待できる。

(2)については、「ならば」は、書籍・新聞・ブログにおいて出現しやすいことを見た。また(3)については、テンスが分化するという特徴を持つ「なら」について『現代雑誌 90 種』で指摘されていた点、すなわち、「た＋なら」が反事実的な条件文に偏ること、過去形は「なら」より「なら＋ば」に接続しやすいことを確認し、このことから「た＋なら＋ば」の場合に、反事実的な条件文に偏る傾向がより強くなることが分かった。また、新たに「たならば」が否定形に接続する傾向が高いことが示された。

「ば・たら・と」という他の順接条件接続辞に比べて多様な接続が可能である「なら」の接続の全体像は『現代雑誌 90 種』においてその多くが明らかになっていたことが、改めて示された。一方で、これらはあくまでも数量的に見た「偏り」「傾向」であり、それに当てはまらない場合も多い。そうした場合について、何か理由があるのか、あるいはないのか、質的な分析を深めることが今後の課題である。

注

１）「動詞＋う」の例は次の一例で、「やや古い文体に属するものである」と指摘されている。

・ここが見役場の、若手水えがく原文を、ありのまま読者にお伝えしよろ

ならば　〈小税倶楽総 2 月 392）

２）検索は短単位検索により、また検索条件としては、語彙素「だ」And「活用形が仮定形」をキーとした。

３）『現代雑誌 90 種』による表１には、「過去・否定形」は示されていないので、表２では「過去・否定形」は「過去」に入れて数を比較した。

４）例えば「{欲しいなら／欲しかったら／欲しければ}、あげますよ。」などでは違いはあまり大きくない。

５）来春３年生になるのですが「進研ゼミ小学講座」をとったことがある方いらっしゃいますか？　どうですか？　取っても子供がやらなきゃ意味が無いですね。取ってみてやらないよなら確か途中でも辞める事できたので。（Yahoo!知恵袋）

６）検索条件は、語彙素「だ」And「活用形が仮定形」をキーとし、前方（１語）共起に「品詞　が　小分類　の　助詞-格助詞」とした。

７）中納言による検索では「副助詞」として品詞を指定したため、この名称を用いておく。なお「係助詞＋なら」で検索すると「いつもなら」(238 件)、「どうしてもなら」(4 件）がヒットしたが、これらは副詞「いつも」「どうしても」に「なら」が接続したものと考えておく。

８）BCCWJ-NT（UniDic）では、「てから」の「から」は格助詞とされている。

９）「て」は「において・について・に関して」など複合助詞化したものが 105 件出現したが、表６からは除いてある。

10)「たり」は、BCCWJ-NT（UniDic）では、接続助詞ではなく副助詞として扱われているが、述語（動詞）に接続する例しか出現しなかったので、接続助詞としてここで扱った。

11)「レアリティ」とは、文に表された事態と現実との関係を指す。レアリティには、一回性の「事実」「仮説」「反事実」、多回性の「一般（恒常)」がある（cf.前田(2009）、奥田（1986))。仁田(1987)では「モード」と呼ばれている。

参考文献

有田節子(2007)『日本語条件文と時制節性』くろしお出版

奥田靖雄（1986)「条件づけを表現するつきそい・あわせ文―その体系性をめぐって」『教育国語』87：2-19

国立国語研究所(1964)『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊：分析』秀英出版（http://db3.ninjal.ac.jp/publication_db/item.php?id=100170025 よりダウンロード可能）

言語学研究会・構文論グループ(1985)「条件づけを表現するつきそい・あわせ文(3)―その3・条件的なつきそい・あわせ文―」『教育国語』83：2-37

田中寛(2004)『日本語複文表現の研究：接続と叙述の構造』白帝社

仁田義雄(1987)「条件づけとその周辺」『日本語学』6-9：13-27

_____(2009)「第9章　条件表現の叙述世界とモダリティ」『仁田義雄日本語文法著作選　第2巻　日本語のモダリティとその周辺』191-214、ひつじ書房

前田直子(2009)『日本語の複文：条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版

宮島達夫(1964)「バとトとタラ」『講座現代語６　口語文法の問題点』320-324、明治書院

（学習院大学教授）